

ヴォックス音楽吟詠会



第66号

令和元年5月1日

会員ニュース

総本部広報委員 谷口松華

平成31年度第10回総会開催される



全国からの参加者受付



近畿浜田先生より歓迎挨拶

去る3月14日(木)平成時代最後のヴォックス音楽吟詠会総会が大阪リバーサイドホテルを会場に、開催されました。当日は河畔公園前の絶好なロケーションのもと、全国の地区本部代表者26名(委任状出席50名)で午後2時より開催となり、事務総局からの報告・提案は賛成多数により全て原案の通り承認されました。事務総長変更の件小芝誠範より小井鶴伸へ変更も承認されました。



草薙本部長挨拶



小井事務総長議事説明



中山信越地区本部長議事説明

❖ 総会に引き続き懇親会を同ホテルで開催されました



乾杯の後和やかな懇親会
が時間の過ぎるのも忘れる程
に盛会に行われました



中山信越地区本部長と三ツ谷会計
委員が名流大会に付いて相談

新年度挨拶 草薙典龍 総本部会長



ヴォックス会員の皆様お変わりなくご活躍の事と存じます。

昨年は今上天皇の平成30周年という祝福の記念する
年で美智子妃殿下と歩まれた素晴らしい偉業は、退位

された後も国民に尊敬され日本歴史に忘れられない天皇として語り
継がれていく事でしょう。

5月1日より皇太子さまが目出度く新天皇に御即位されました、
心よりご祝福申し上げます。新元号は令和と定まりました。令和の
年号は詩吟を精進するものに相応し、「初春の令月にして氣淑(よ)
く風和ぎ」からなる万葉集梅の歌32首の序文から命名されました。
日本伝統文化の吟詠発展を目指す私共にとって大変有り難い
年号と存じます。

この慶ばしき年に私共のヴォックス40周年と重なり、二重の慶びの
中で、本年11月17日に本会の信越地区中山国洲本部長の
膝元松本市で名流大会が開催されますことは大変有意義で価
値ある記念大会と存じます。

ヴォックス会員の皆様この素晴らしい令和元年の貴い年に南雲先
生の信条と融和と結束を大切にして会員一丸となって40周年の
名流大会を成功させたいと願って止みません。

信越松本大会での再会を楽しみに、私のご挨拶と致します。

新年度にあたり小井鶴伸事務総長挨拶



ヴォックス音楽吟詠会総本部役員の先生方並びに会員の皆様に自己紹介を兼ねてご挨拶申し上げます。
平成31年3月14日(2019年)大阪リバーサイドホテルに於いて、第10回総会を近畿地区本部長浜田天翠先生のお世話により開催されました。

所定のセレモニーに続き議事の中で、31年度入会者報告、役員の変更が提案され、この度長年お世話を頂いた小芝誠範先生が一身上の都合により退任され、代わって副事務総長を務めていました小井鶴伸が、事務総長として務めさせていただくことになりました。伝統あるヴォックス音楽吟詠会の運営に関わる大役が、もとより微力非才の私に務まるか甚だ疑問であります。長年に亘り事務総長としてヴォックス音楽吟詠会をリードされた小芝誠範先生が、相談役としてご指導頂けることになりましたので、図々しくもお引き受けすることに成りました。どうか各地区本部長先生はじめ会員の皆様の協力を賜りながら、努力して参る覚悟でございます。私は26歳の時縁あって当時の関西吟詩同好会名古屋支部に入会、伊東鷺伸先生に指導を受け、爾来55年の歳月が過ぎました。その後名古屋支部を改め鷺伸吟詠会の創設に関わり、現在鷺伸吟詠会会長として、総本部相談役、東海地区連合会会長を兼ね吟道の発展に微力を注いでおります。

会長の草薙典龍先生とは、伊東鷺伸先生を通してお付き合いをさせて頂いておりますが、誰もが認める草薙典龍先生の人格、お人柄を尊敬し、熱血の魂しいに感銘しております。併せて南雲一廣先生の信条に敬意を表し、特に「荒廃した人心を詩吟の魂で生き返らせた」と一念に傾倒する者であります。吟界の現状は社会環境の変化、少子高齢化に伴う会員の減少に悩み、深刻な課題としてのしかかっております。このことは、ヴォックス音楽吟詠会に於いても大きな課題と思っております。

一人でも多くの人に声を掛け、会員の増強を図っていきたいと願っています。本年度 2019 年(令和元年)は、スケジュールに、名流大会が企画され、松本市での開催が決定されています。その他恒例の各地区大会はじめ、全国決勝大会、CD吹き込み、コンクールは漢詩の部に短歌の部を新設、2020 年度(令和 2 年)総会は、神奈川地区のお世話で、ニューウエルシテイ—湯河原「令和 2 年 3 月 12 日～13 日(金)」を予定しております。素敵温泉でゆつくりと英気を養い、ヴォックス音楽吟詠会の発展に邁進しようではありませんか。

各地区本都会員様のたいなる参加とご支援を頂きたく、お願い申しあげ、新任挨拶とさせていただきます。



平成 30 年度

第 39 回全国吟詠コンクール決勝大会

平成 30 年 9 月 30 日(日)名古屋教育センターホールに於いて全国地区大会を勝抜いた 118 名と 8 組(合吟)の吟者が文部科学大臣賞トロフィーを目指し競い合いました



全国各地より出場者受付



大会説明



審査員の先生方



伴奏尺八柴田尚光先生
お琴小森伸子先生

優勝・準優勝の喜びの皆さん

第1部優勝 群馬地区代表 上田有紗

私は、小学校五年生です。吟詠は五才から祖母に習っています。



吟詠の練習は苦手で、上手に出来ない日もあり、「いやだなあ」と思いますが、「楽しめる様にガンバロー！」を目標にしています。

本番は、緊張しましたが、全力で吟じました。優勝でき大きなトロフィーにびっくりしましたが、とてもうれしかったです。祖母が喜んでるだろうなと思いました。

いつも応援してくださる国壮流の家元先生や皆様にも喜んでいただきうれしかったです。これからも、吟詠が更に上手に成る様に努力して祖母、母、妹と三世代で楽しくがんばって、いこうと思います。



群馬地方春の原風景



第二部 優勝 群馬地区代表 越谷綾乃

私は群馬県の国壮流吟剣詩舞道会という流派の、祖母が会長をしている荘孝会に所属しています。

前回の全国大会出場から、6年振りの出場で優勝という結果に驚き大変嬉しく思います。

群馬地区代表として出場し荘孝会の皆さんや国壮流の皆さん、群馬県以外の流派の皆さんに応援して頂き、このような結果を残す事ができ感謝の気持ちでいっぱいです。現在若い人が少ない吟剣詩舞の世界ですが、詩情を表現する難しさ、その中にある楽しさ、魅力を同世代の一人でも多く知ってもらい仲間をふやせるよう伝えて行くことが出来ればと思います。

結びに国壮流家元をはじめ、諸先生方に厚く御礼申し上げます、変わらぬご指導を賜ります様お願い申し上げます。また、今後もより一層精進していきたいと思っています。





第三部 優勝 播磨地区代表 五島和仁

この度、第三部で目標としてきた「優勝」をさせて頂く事が出来ました。ご指導賜りました諸先生方、応援して下さいました吟友等、本当に沢山の方の激励があつての結果です。本当に有難う御座いました。昨年、準優勝者として、感想文を書かせて頂いた事を思い出しました。

嬉しさ半分で「来年こそは優勝を」と心に誓いました。あれからアツと言う間に一年が過ぎ、練習を重ねて来ましたが、とても自分に自信が持てる状況では無い中、当日を迎えました。台風が接近する中、会場に着いた時には「せっかくここまで来たのだから思い切って吟じよう」と腹が決まりました。

良い意味での開き直りは、肩の力が抜けて良かったのでしょうか？あまり緊張もせず、練習の時ように吟じる事が出来ました。とは言え、私の吟はまだまだ発展途上にあります。もっと詩情を理解し、それを表現出来、人に感動を与えられるような吟を目指しこれからも精進して参りたいと思います。更なる次の高みを目指して参ります！本当に有難う御座いました。



第三部 準優勝 群馬地区代表 横山浩保

地区大会を経て、不安と喜びを抱き第39回全国大会に出場させていただきました。第三部は出場者が少ない中でしたが、光栄にも準優勝と名誉有る賞を頂きました。普段の稽古はなかなか先生の教えの通りに思うように吟じる事が出来なかったのですが、熱心な先生と愉快的仲間達に励まされ、思い通りの発表とまでは行かなかったのですが、皆さんのお陰で少しづつではあります上達出来たのかなと思いました。

今回の賞を戴き大変気力も付き励みになりました。また全国大会に出場させて頂き、いろいろな刺激を受ける事が出来ました。諸先生方に感謝申し上げます。これからも詩吟を通して、沢山のひとと出会い修練し、人間性の向上に努めて行きたいと思ひます。

今後共ご指導の程宜しくお願い致します。



第四部 優勝

信越地区代表

池内八代枝

詩吟が好き、吟

じる事が好き、只

そんな思いから始めた習いごとでした。でもいつしかヴォックス吟詠コンクールに出場する度に結果を気にするようになり挑戦を重ねつつ気がつけば上位を目指し無心に頑張る自分の姿がありました。今回歴史あるこの大会に於いて優勝の栄誉を頂く事が出来た事は、とても大きな喜びでした。今日までの長い吟の道でいつも叱咤し励まして下さった今は亡き諸先生をはじめ、現在もご指導下さる諸先生に感謝の気持ちで一杯です。

今後は賞に恥じないようもう一度初心にかえり思いのたけを込めて精進したいと思っています。又、素晴らしい吟の魅力も多くの方に伝えるお手伝いが出来ればと考えています。

最後に吟詠コンクール全国大会に携わり私達出場者が気持ちよく吟じられる舞台を準備して下さいました大会実行委員の皆様心から御礼申し上げます。



第四部 準優勝

群馬地区代表

立石京子

ヴォックス吟詠コンク

ールに出場させて頂き10年が経ちました。最初の方は各地区代表の方達の吟詠・雰囲気・迫力に圧倒され、大変なコンクールに来てしまったと啞然とした事を思い出しました。

数年前には出だしからうまくいかず途中退場、一年間の努力が情けない結果となってしまった経験も致しました。日本の古来からの素晴らしい和歌の魅力に引き込まれその詩情をどのように発声したら表現出来るかを考え悩む日々が現在も続いています。ですがこれも勉強と思っております。

思いがけず準優勝を頂いた事に感激し厳しい練習、細かいご指導をして頂いた先生と家族の理解と応援に大変感謝をしております。

来年も今回の結果を糧に更に全国大会を目指して精進して参ります。役員と諸先生方本当に有難う御座いました。



第五部優勝及び文部科学大臣賞

中部地区代表 小山恒生

「ヴォックス音楽吟詠会と母音の芸術」

今年が平成最後の全国大会、時代の区切りの年でした。そして思いがけず総合優勝の文部

科学大臣賞までいただき嬉しさ一杯でした。静吟詩堂静龍会の皆様、そして会長笠井静典先生こと武芸日本秀堂流真気合宗家草薙典龍先生のアドバイスを頂戴して作り上げた吟でした。大変お世話になり心から感謝しております。表題のタイトルは中日新聞に優勝記事を報道される担当記者から詩吟の質問で、初めの咄嗟の言葉でした。

私の拘りに、詩は言葉と共に「言葉」→「気力」→「吟声・母音」→「節回し」が必定と考えて精進して参りました。そして「詩情」を伴った吟に近付いたかなと思った次第ですと、お答え致しました。

35年前～今日迄沢山の人に支えられて参りました。これからもこの友情と交流を忘れずに、詩情と豊かな声量が私のこれからの課題と受け止めて、この受賞に恥じないよう吟道に邁進して参ります。

今大会に携わった関係諸先生の方に厚く御礼申し上げます。

有難う御座いました。



第五部準優勝 中部地区代表

安達 董

今年度中部地区では和歌の部が新設された事もあり挑戦させて頂きました。

決勝大会では詩吟と混合という事で、緊張して臨みました。出場順が遅い事もあり肩の力が抜けた状態で朗詠出来ました。

結果、準優勝本人が一番驚いた瞬間でした。

当日台風接近という生憎の天候で折角の舞台に立つ事が出来なかった皆様方には本当に残念なことだったと思います。

来年は新しい会場で開催される予定との事で是非チャレンジして頂きたいと思います。

最後になりましたが、審査員の先生方はじめ役員の先生方、当日応援して頂きました会場の皆様に厚く御礼申し上げます。





第六部 優勝 播磨地区代表
田辺顕嘉・前川健一・廣畑 統・
野間秀一・谷口勝巳



去る9月30日早朝、台風24号に追いかけられ姫路駅より新幹線に飛び乗り名古屋に向かいました。前日には台風情報も厳しく大会が中止なのかどうかとヤキモキして落ち着きませんでした。夕方には大会は実行されるとの情報があり、ホッと致しました。台風よりは大分早く名古屋に到着し大会に臨む事が出来ました。

第六部5人の合吟競吟でしたが、前奏の後「全員一斉に吟ずる」と言うのは初めての人が二人居ました。通常は前奏の後先導者が第一節を吟じると言うものでした。前奏が何種類かあるので「富士山」の前奏はどんなものか、じっと耳を凝らしてこれだと言う前奏を探り当てました。

お陰さまで「優勝」の荣誉に浴することが出来ました。

翌朝台風は去って無事帰路に着きました。もちろん当日の夜は「大宴会」?でした。審査に当たられた先生方、運営に当たられた先生方に厚く御礼申し上げます。



第六部 準優勝 群馬地区代表
山下美津子・小林直美・千葉春枝・
野枝八千代・酒井 綾

この度、名古屋で行われましたヴォックス音楽吟詠コンクール第39回全国決勝大会において、準優勝の荣誉を賜る事が出来ました。同志5名ともども大変喜んでおります。私どもは、毎年群馬地区大会に出場しているものの、全国大会への出場権を逃し、ずっと悔しい思いをして来ましたが、今回初めて全国大会出場を果たす事が出来ました。

長い間の念願が叶って喜んで決勝大会に参加致しました。

ましてや、この全国大会で入賞することなど予想だにしていなかっただけに、順位発表を聞いた時には耳を疑った程でした。

発表の後除々に喜びが湧き5人で手を取り合って喜びを分かち合いました。今回の出場にあたっては、今までにないほどの稽古を重ねて来ました。その成果が表れたと思っています。今後精進を重ね新しい目標に向かって行きたいと思えます。

有難う御座いました。

『漢詩』平成三十年 戊戌六月―七月 片倉清風(清彭)作 (下平声一先韻)

『悲永訣』 『永訣を悲しむ』

望月思君此一年 無那永訣淚空闊

ぼうげつ きみ おも こ ねん えいけつ なみだ むな み いかん な
望月 君を思ふて 此の一年 永訣の涙 空しく闊ちて 那ともする無し

噫乎憶昔周章段 笑莞爾而如蝶娟

あゝ おくせき しゅうしょう だん かんじ わら ちよう ごと えん
噫乎 憶昔す 周章の段 莞爾として 笑い 蝶の如く娟なるを

益友厚情長渡忝 眞交誼謝感銘專

えきゆう こうじょうなが わた かたじけな まこと こうぎ しゃ かんめい もつぱ
益友の厚情 長きに渡つて 忝し 眞の交誼に謝し 感銘を専らにす

膽星感晚鴉孤影 願賦詩吟詠欲全』

ほし み ばんあ こえい かん ねが し ふ ぎん えい まつと ほつ
星を膽あげれば 晚鴉に孤影を感ず 願はくは詩を賦し吟を詠じ 全うせんと欲す』

我愛會詩高潔爽 開山理念信条泉

われ あい かいし こうけつ さわ かいざん りねん しんじよう いずみ
我は愛す會詩の高潔にして爽やかなるを 開山の理念と信条 泉なり

王冠飾賜杯斯寶 藹藹爭鋒神自圓

わうくわん じゆん さいはい すなわ たから あいあい そうほう しん おのず まどか
王冠の飾りの賜杯は斯ち寶なり 藹藹たる争鋒 神 自から圓なり

今歳看過華繚亂 炎炎變激連綿

こんさい みすみすず りようらん はな えんえん さいへん はげ れんめん
今歳 看過 繚亂の華 炎炎たる災變 激しくして連綿たり

時宜合尾張交款 兵士老殘余命然』

じぎ まさ をはり こうかん ろうざん へいし よめい しか
時宜 合に尾張に交款すべし 老殘の兵士 余命 然り』

〔語釈〕君―妻片倉耿風(てるみ)・没平成二十九年四月十六日八十三才。

憶ふ昔・周章の段―互いに釜山の少年時代の頃。終戦後の再会の頃。清流会の桂林からの船下り。ヴォックス吟詠会での重慶から長江周遊船下り。吟友と北京への紫禁城の旅。夫婦或は吟友での国内各地と香港・シンガポールの旅。アメリカ西海岸の旅。

ヴォックス吟詠会全国コンクール大会は南は九州までの総ての大会を。

莞爾―いかにも満足げに、にっこり笑う様子。娟―美しく上品である。益友―益者三友：交わつて有益な三種の友人。それは正直な人、誠のある人。知識の多い人。親友。

我愛會詩―この會詩はヴォックス之詩。開山―事物の創始者・芸能界などの第一人者を指す。理念・信条―南雲―廣先生の厚い思い。兵士老殘―作者自身を言う。

雑記：拝啓 日本吟詠学院清流会会員の皆様方に措かれましては妻片倉耿風共々大変長い年月に亘り一方ならぬご厚誼を賜りまして誠に有難く心より感謝を申しあげます。他界して今日に至るまで何かにつけ走馬灯の如く楽しかった事ばかりが思い出されてなりません。これも先生方のご指導の御陰と感謝を致して居る次第で御座います。昔から人生五十年と謳われて参りましたが、嬉しい事に近年は百歳を目指す世の中になりました。老残の身に鞭を打つて今後益々頑張りたと思いますので相変わらず宜しくご指導の程お願い申し上げます。

尚長期間、役柄と諸行事には大変ご迷惑をお掛け致しまして本当に申し訳御座いませんでした。体調と相談の上、出来得る限り頑張りたと思います。私事で大変恐縮で御座いますが妻の一周忌を迎えるまでの思いを羅列させていただきましたが拙詩をご笑覧頂ければ幸いです。

かしこ



メモ

A series of horizontal dashed lines for writing notes.



令和2年度吟詠コンクール課題吟

漢詩の部

	吟 題	作 者
1	九月十三夜陣中の作	上杉謙信
2	春日山懐古	大槻磐溪
3	大楠公	徳川景山
4	楓橋夜泊	張 継
5	山 行	杜 牧
6	九月十日	菅原道真
7	事に感ず	于 墳
8	海南行	細川頼之
9	春 曉	孟 浩然
10	常盤狐を抱くの図に題す	梁川星巖

短歌の部

1	東風吹かば	菅原道真
2	田子の浦ゆ	山部赤人
3	幾山河	若山牧水
4	たわむれに	石川啄木
5	天の原	阿部仲麻呂